



▲クリスマスツリーを飾った手芸コースの会員たち

この活動は、博物館さわやかボランティアメンバーの白山文子さんと池沢昭子さんが、紋別市ことぶき大学手芸コースの仲間たち呼びかけで行っているもの。ツリーには流行語を使った標語「オホーツクに、街に、

冬はクリスマスやイルミネーションで華やかさを増す季節。年末の博物館（佐藤和利館長）には、今シーズンも手芸作品で飾ったユニークなクリスマスツリーがお目見え

「お魚ツリー」が登場 景気回復を願って

い。訪れ人たちは「さすが全
国入賞作品は素晴らしい才能
を感じる」と話していました。
会場の随所には、同支部の
会員らによる生け花サーク

ル・光輪花クラブの生け花作
品が飾られ、抹茶サービスや
生け花・一輪挿しの体験コー
ナーも人気を集めました。

し、訪れる人の目を楽しませ
ました。

今回の作品は、紋別の魚が
テーマ。色とりどりのカニや
サケ、カレイ、サンマ、タコ、
イカなど120個が、高さ2
メートルほどの
ツリーを飾りま
した。



▲子どもたちもアイスクャンدلづくりに挑戦

市内の老人クラ
ブ会員と児童館を
利用する児童ら
が、ユニークな軽
スポーツで交流を
深める「高齢者の
健康づくり事業」
世代間交流ニュー
スポーツ競技会」
が12月3日、スポ
ーツセンターで開
かれました。高齢
者児童約131人
が参加し、楽しく
ニュースポーツを
楽しみました。



▲児童も高齢者もカローリングを楽しむ

活気に、ハッスル、ハッスル」
と「大漁だ！豊漁だ！笑顔だ
あ！フオー!!」も添え、景気

街を彩るアイスクャンدل 科学センターで製作講習会

平成17年2月に初めて行わ
れた「氷灯りの街」イベント。
平成18年の開催に向け、市民
にもアイスクャンدل作りに
挑戦してもらおうとする講習
会が12月1日・2日に道立オ
ホーツク流水科学センター
「ギザ」（青田昌秋所長）で開
かれました。親子連れなど合
わせて約40人が参加し、牛乳

回復への期待を込めたそうで
す。

パックとコーヒー缶を使用し
た製作方法、透明な氷の作り
方、ろうそくづくりなどを学
びました。

講師を務めた「ギザ」の鈴

高齢者と児童がスポーツ交流 カローリングやスカットボールに歓声

江隆司事業係や山中昭雄専門
員らは「煮沸した水や蒸留水
が透明な氷を作る秘訣です」
などとアドバイス。「もんべ
つ美しいまちづくり推進委員
会」（伊藤智会長・事務局）
市環境生活課）の清水副参事
も講師に招かれ、「廃油ロー
ソクづくり」をコーチ。参加
した市民は「きれいなアイス
キャンダルを作ろう」と熱心
に取り組んでいました。